

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2001年4月25日発行

露宿

第12号

rojuku



定価500円

表紙写真	亀山 亮	
文中写真	岡田知子	
極限の春	富士森和行	2
嗚呼いとしのさくら寮糞尿譚	三手板蔵	3
酒場螢 他	弓削鴻介	5
ひとひらの記憶	K	6
母の思い出	小一	
生命のはかなさと尊命の有難さ	悔吾	7
己との闘ひ	田代 猛	8
若者との交流で	宗春	
詩	新宿のかっちゃん	9
短歌	いわせまさと	
無題	雑草	
春の雲	風来坊	10
終着駅	清翠	11
詩	秋戸 空	13
無題	なかまより	14
ホップ・ステップ・ロダン	只野酔払	15
地獄の天使 他	なかまより	17
愚かな太郎 他	なかまより	18
朝太郎の箱船	鈴木克彦	19
マンモス交番 (抄)	望月大成	23
新宿中央公園にて詠む	橘 安純	26
おきなわ旅日記	恩田美代子	
湊町より	高橋美香	27
東京路上ふらり散歩	笠井和明	28
	岡田 知子	
露宿の本棚	折口 文	35
読者のページ		36
はり師いが丸の肝心かなめ	はり師いが丸	37
編集後記		38

極限の春 十六首 富士森和行

画廊ギャラリーの展示準備の夜遅く照る灯温るくも待つ人ありて
路地の灯の紅き暖簾のれんくゞりきて対談つきぬほろ苦き酒
携帯に渡米取材の君を知る慶よろこび兆きざす春は間近に

棧密と云ふ文字死語として処理したし揺れる國あり極限の春
泥にまみれ斗志もやせし日もありき君を見送くる空港ロビー

(三・五 国際線、成田空港にて)

わが終いの棲すみ家さへいま生き苦るし人とのか、わり今更寂し
三里塚放牧せるを幻に見し彼の日たゞ杳はるかにけぶる

この拡ひろき滑走路めぐり人々の生きる斗争ありしかと思ふ
霧雨きりさめとなりて終らむ弥生ひと日路上をぬらし心さむざむと

雨の夜のやくざ映画の割引のベルも侘わびしき昭和館
戦時下のわが学生時代想起せる翳かげなお潜ひそむ新宿南口

街灯にぬれそぼちたる沈丁花いろ紅白に夫婦めおとびな離なれども

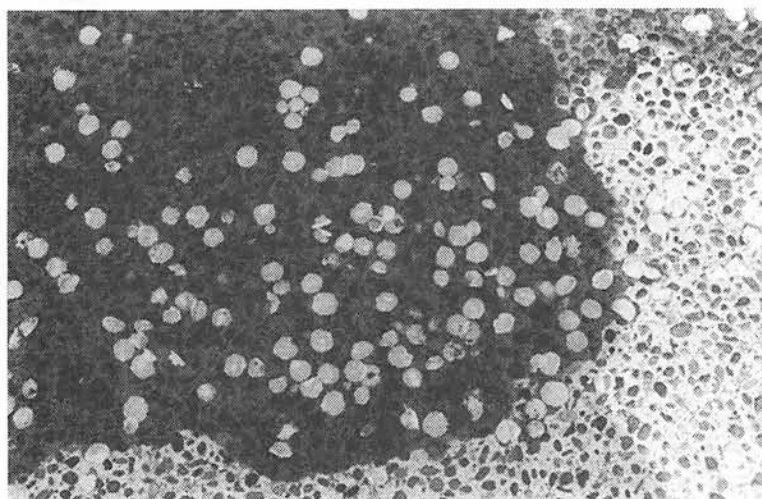
(三・三、弥生ひな祭に思ふ)

春先きの氣象不順に今日も過ぐ政治不信の中に老いつきて

めぐり来る時季ときひとすじに路上より芽吹くものらよ春よ育てむ
永らへてきしと思へばわが命せつなく時に恋ごころ燃ゆ

パブリケーションと言ひし党首の説得の乏し新世紀の混沌として

(三・三 新世紀ひな祭の宵)



嗚呼いとつらさくら寮遺尿譚

三手板蔵

ホームレスという言葉聞くようになってのはいつの頃であろうか。ひと昔まえまでは日本にそんな言葉はなかった。ホームレスの日本語訳は路上生活者などといわれている。ホームとは家庭のほかに故郷などの意味もあり、ハウストレスのほうが適切な表現であると思うのだがどうしてハウストレスとは言はないのだろうか。

それはともかくとして何んの因果か、はたまた何かのたたりでもあったのか、まったくとつぜんある日をさかいにそのホームレスが当の本人、自分であることを見つけた。事実は小説より奇なりとはまさにこのことを言うのであろう、どんなにまちがってもホームレスが自分の身にふりかかってくるなど思いもよらなかった。その確率は宝くじにあた

る確率よりはるかに低いとさえ思っていた。ところが、どっこい、いとも簡単にホームレスにおさまってしまったではないか。「死神は前から来るのではないか」とつぜん、うしろから肩をポンと叩くのだ」と言うことを聞いたことがある。自分の場合はまさにそのとおりで肩を叩かれたのは叩かれたのだが、どうしたのかその死神が逃げて行ってしまった。おかげで死にそこなって医者言うのには「脳血栓」。それからケチのつきはじめ、することやることすべてがうまくいかない。流れ流れたついでが新宿は内藤町さくら寮。このさくら寮、知る人ぞ知るホームレスの人達を越冬させる施設で東京都が管理している。施設といっても恒久的な建物ではない。いわゆるプレハブと言われている軽量鉄骨で

組みあげられたあくまで仮の建物である。聞くところによると使用期間すぎると毎年取り壊して新しいのを建てかえているらしい。役所はいつも予算が少いのをまっ先に言うものだが、なぜこの施設を毎年取り壊してゴミにし、新しいのを建て替えねばならないのか不思議に思っている。こんな建物は建てるのも壊すのも同じくらいに費用がかかる。やり方によっては取り壊すほうがやっかいなことが多い。それはともかく、ここで施設の概要を先に書くことが順序と言うものであろう。

建物はおおまかに三つにわけられる。事務所、風呂場、宿泊施設、まず門をはいると右側に事務所、それを約五十メートルくらい奥に行くと宿泊施設、風呂、洗面所、トイレがいちおう合理的な形でおさまっている。宿泊施設は二階建て二階には二号室、三号室があり階下には一号室と食堂、調理室がある。部屋は一号室が一番大きく六十六畳の広さでそのうち二畳が土間になっているので実質六十四畳、そこへだいたい三十四、五人ぐらい寝起きしている。

起床時間は七時、これは規則によって定められている。勝手に起きて他人に

迷惑をかけるようなことは許されない。朝食は八時。業者が持つてくる弁当だが飯はおかわり自由だし、みそ汁もおかわりができる。だが今のところ馬鹿の三杯汁はいないようだ。しかしどのせいかいでも大めし喰らいはいるものであたたかも満腹中枢が機能していないのではないかと思わせる底なし沼が一人いた。それが糞尿譚一号、Sだ。Sは寝小便の癖があるのでふとんのうえにビニールを敷いて寝ている。あちこちの精神病院を転々として今はだいたい「まとも」になつたらしい。だがそれでも言っていることがわからない。ろれつがまわらないとでもいうのであろうか泥酔状態の時とまったく変らない。入寮一日目には誰かが驚いた。酒を飲んでこんな処に来ることができるわけがない。しかし酔ってはいなかった。酔ったように見えただけ。とにかく後から肩を軽く叩けば前にひっくり返りそうな歩きぶり。このSが尿なら糞のほうでもう一人の立役者がいる。Hだ。Hは足がすこしわるいがその他はこれといってわるいところは無いように見える。当人は糖尿病で通院しているとは言っているが、これがまた厄介者で糞を衣服につけたまま

部屋の中に座っているのだ。たちまち部屋の中は蜂の巣をつついたような大騒ぎ。衣類を脱がせて洗濯をさせる。見かけはまともでもやはり糞をつけて平気で居るだけのことにはある。やることもまともでない。洗濯を職員にさせている。ところが、ところが話はこれだけではない。続きがある。次に出てくるのがKだ。Kは年齢が七十一歳。彼を見ていると人間七十にもなるとこのようなことになるのかと冷水をあびせかけられたような思いがする。よろよろ歩くのは、しかたがないとしても耳がほとんど聞こえない。そのうえ完全にアルツハイマー病の症状を呈している。目がうつろだ。このKがところもあるうことか風呂の中で糞をもらしてしまった。風呂場はたちまち糞の臭いがたちこめる。せつかく沸かしたお湯はとりかえなければならぬ。これまた大騒ぎでそうじをしてお湯を沸かしなおす。S、H、K、この三人トリオのおかげで一号室は、しばしば糞尿の臭いに襲われる。ところが初めのころは喧々囂々、大混乱だった部屋の中だがやはり人間にはなれというものがあるのか二度三度となると洗濯なども手伝ってやる人がいて、いまのと

ころは大過なくおさまっている。下の話でいささか話がよごれてしまったので話をもとにもどすことにしよう。朝食が終ったところでタバコが支給される。非喫煙者にはお菓子だ。九時から午後四時三十分までは自由時間。外出も事務所の許可をうければ毎日でもOKだ。夕食は五時三十分。風呂は三時から七時まで。三回の食事時間以外には娯楽室（食堂が娯楽室を兼ねている）でテレビを見ることができ、また碁、将棋などを楽しむこともできる。各部屋には換気扇、加湿器も備わつてをり健康に対する配慮も充分だ。お茶なども湯沸しポットがありいくらでも飲める。就寝時間は十時となっているがテレビを観る人達は特別の許可をもらって十一時頃まで観ている時がある。うんこの話を書いてしまったので、さくら寮は…ということになりそうだが、たまたま一号室にお三方が集中しただけのことであり、人生にはうんはつきものであり、ついている時もあればついていない時もあるのは言うまでもないことであろう。

酒場螢

夜でなければ、生きられぬ、
そんな運命を、秘めて飛ぶ、
ほうほう螢、ほう螢
酒場螢が、今日も飛ぶ。

可愛いがられて、左裮、
取った積りが、捨てられて、
初めて知った、恋の味、
酒場螢が、火を灯す。

生きる術無く、生きられぬ、
酒を注ぐのも、生きるため、
ほうほう螢、ほう螢、
酒場螢が、今日も飛ぶ。

忍と言う女

つばさ痛めて、飛べない鴉、
船の汽笛が、悲しいか、
そんな気がする、この俺に、
心を寄せた、人がいる、
夜の酒場の、片隅で、
上辺で笑い、陰で泣く、忍と言う女。

逢うも別れも、何時しか途絶え、
梨の礫の、片便り、
勝手気儘な、この俺に、
涙をくれた、人がいる、
今は病床の、虚しさか、
真顔も褪せて、身も細る、忍と言う女。

どうせ二人は、飛べない鴉、
船の汽笛が、悲しいか、
そんな気がする、この俺に、
未練を燃やす、人がいる、
古い港の、裏街で、
星空眺め、恋に歎く、忍と言う女。

弓削鴻介

ひとひらの記憶 七より

海からの風が、路面の淡雪をさらう。

宮城県雄勝町。春先の刺すような風を、この地方では「春風」と呼ぶ。太平洋の白波とともに吹く風は、窓をカタカタと鳴らす。

朝、海辺の小さな電気店に新聞が届く。石井和子さん(五一)はこの季節の新聞が特に待ち遠しい。

皇居のおほり。千鳥ヶ淵の桜が咲きはじめました。

十二年前のあの日、東京の大学に進学した息子の入学式に夫と上京した。前日、千鳥ヶ淵を歩いた。花びらが風に舞う。

桜のトンネルがゆらり揺れる。水面にうかぶ花いかだが大きくなったり、小さくなったりする。

「こんなにきれいな桜もつたいないね」雄勝に帰っても賑わいない日が続いた。

当時、息子は新聞販売店の寮に住み込んで通学した。

春、広告を見るとほつとする。寒さがゆるんで、朝夕の配達が楽になるだろうと、便りをよこさない息子の代わりに、広告が近況を伝えてくれた。

東京の桜は二十三日にひらいた。

母の思い出 小一

俺れは生きてる母にありがとうと言

う。俺れは人生の半分るじよう生きたから言うんじやないが、今わなき母はいつでも俺れの心に生きて居る。

人生はつらいが長いきしろ、世間は皆んな他人だよ、世に出た事に喜ろこび、楽しさやすらぎを抱き又悲しみ、不安、恐さお抱き、困難絶望を抱きしめて希望勇氣根性を抱きしめて、過去は過去、現在ば抱きしめて行けば人生又太陽すべてが俺れを抱きしめて見え、生きる事の喜ろこび大切さをおしえてくれた母さんありがとう。

俺れは今他人同志の中に居るが、決してもめ事には顔を出さない。母にもらったこの命無駄にはしない。他人同志こをして出会いるつか別れの時わくるけれど、永遠に消えない生命煌の思いい出を抱きしめて又明日からがんばり一日も早く退院する事にします
ありがとう

豆節分

鬼わ外 鬼はるつでも

外にいる

鬼わ外 年に一度わ

外出か

家出娘

七色の 夢もさめたか

歌舞伎町

先日は露宿十一号ありがとお御座居ました。

仲間の皆様も元気で居る事と思いま

す。寒さもやわらぎ一日一日と花が咲く陽気となりますので身体だけは気をつけて下さい。

何にも出来なるが、俺に出来る事わ、文通する事と、皆さんの健康をいのる事しか出来ません。ただ皆さんと顔を

会わし共に行動したいる想いで居ます

が、何にも出来ずにすみません。

笠井さん色々ありがとお御座居ました。

一つ思いついた事を書きます。母の思いい出お話します。

では、皆様仲間手を取り合つて元気で居てください。

さよなら 小一 八王子T病院より

生命のはかなさと尊命の有難さ

悔吾

今人権とか命を大切にとか色々世間で言われ問われてい
るけれど命ある者、一度は死するのである。でも死のうと思
いつめている者でもなかなか死する事は出来ない、勇氣とか
一瞬の決とか、が無い。ビルの屋上とか、橋の上とか、電車
の線路とか、薬物を呑むとか色々首をつるとか色々ある
だろう、しかし、その場に行き着くと、うろたえる。その時
「勇氣」？、「決断」？、などと云う事になるのかどうか何日も昼
を問わず夜中も歩き続け、足は棒の様になり目は頭は只ぼう
然として来る。そして一日は終つてしまふ。人の目を見るの
も恐しい、死のうと思つているのに食物などはいらない、の
みものなどもない、金もない、しかし、食べ物屋の前を通ると、腹がなく、販売機の前に行けば呑みたくなる。
それには金もいる、しかし今は何も無い、いくつかの病を身
におい、しかし歩かなければどこかすわれる処を。今若い
中学生や高校生、又中年の者でも毎日の様に新聞に載つてい
る、自殺者の多い事。今がそうゆう世間に成つてしまつてい
るのであるか。

しかし死を考へ毎日の如く昼を問わず夜中といひ死の道を
さまよい歩き続けても死ねない、なぜだ。未れんが無いかと
か、それとも、まだ何とかなるなどと云う未れんがあるから
か、何か良い考へはと、浮ば無い。情けない。ほんとうに悔
やまれる。しかし自分自身ではどうにもならない、ほんとう
に毎日が恐い。

水を飲み煙草はしろって、すう。情けない、だが誰も人の
事など解からない。それでいて毎日はまだ生きてる。命の
尊さとか、命の有難さとか色々とか書かれています、誌を見る



けれど、それを読んで今なにが理解できる。理解する頭に力が無い。
それでいて死する事は出来ない。運命と解く。その人の生まれ持つ
た星なのか、何なのか、解らない解いてほしい。だけれど、それでい
て、今日もまた生きて路をさまよい歩いている。寝むい。だが寝る
事さえままならない。考へてしまふ力も無いのに、なぜなのだ。未
練など無いと思つても未練はある。何とかなると思つと、そんな小
さな事は大事なのか、ほんとうに命は大切なのか、ぶつぶつと、こ
の様な事を書き記している今が解らない。
命の一一〇番などと云う電話で相談などと言う所もある。どうし
て死ぬほど考へるのかと、死んでどうなるのか、とか、どうすれば
貴男は今生きて行けるのかとか只話しを聞くだけで、それで解決で
きるのか。ほんとうに解らない。だが、生きてる。やっぱり自分
で解決し、自分一人で生きて行くだけなのか。命とはそんなに尊い
ものなのか、それさえ解らない。
だが、生きてる。

己との闘ひ 田代猛

ふと、深夜に眼が覚める。時計を見る
と一時半だ。昨夜医師より頂いた睡眠薬
を服用したのに……。毎夜、毎夜、不眠が
続く……。

天井を眺めながら、いろいろと回想に
ふける。幼、少年時代、青春時代（青春
なんてなかったが……）……次々と想ひに
ける。

学徒動員時代、郷里長崎市で三菱製工
所で原爆に会い多くの友人を亡くした。
その友の一人一人の顔が頭と心に浮かぶ。
若くして命を断った友よ安かれと。

昨年六月破傷風の菌が全身に回り死線
をさまよひ、国立医療センター、山梨春
日居りハビリテーション、入院。そして現
在も未だ破傷風の菌が体内の一部神経に
残ってゐるとの由、未だにも医療センタ
ー（西洋医学）、ひまわり鍼灸院（東洋医
学）を併用しながら連日の通院。病氣と
己との闘ひの日々です。

通院中のバスの中で新宿公園を通過す
る。途中青いビニールシートを窓外より
眺めながら、「今日一日、頑張れよ」と心
の中で叫ぶ。

暗いニュースばかりの現実の実態、政
治の貧困、人間の心の貧しさ、でも己と

の闘ひなのだと思ひ頑張り、頑張り、生きま
す。

昨今、東京の山手線（新大久保駅）にて酒
によつた人を助けようとして勇氣ある二人の
人が亡くなりました。私もその勇氣ある行動
の立派さや何物にも代え難い、命を捨てて救
おうとした行動力は賞賛にあたいするものと
深く思ひます。連日新聞、ニュースでその行
動が報じられてゐました。そしてその勇氣あ
る行動力をたたえて居ました。

その時、ふと心に思ひました。新宿連絡会
の有志の一人一人が連日連夜、飢えと病氣の
貧しき人々を、ここ数年、何十人の人々の命
を救ひ社会に立ち上げさせたのだからかと。
雨の日も風の日も連日連夜のバトロール、「炊
き出し」、社会の人々の片隅での行動が、実行
が、その行動力、実行力こそ、社会性ある誠
の勇氣と心から賞賛にあたいするものと深く
深く考え思ひます。

そして、この小さな「露宿」と云ふ雑誌を
通じて人々の交りが始まりました。各人、各
人、の生きかた、考えかたもあるでせう。で
も皆様その生きかたを大切に大事にして生き
て下さい。

お互いに頑張りませう。そして「露宿」を
通して学ばせて頂いた事を心から感謝致して
居ます。

皆様の御自愛と御健闘を心から祈ります。

若者との交流で 宗春

私も路上生活者となり早二年の月日が流れよう
としていきます。

この長引く不況が続く昨今、非常にホームレス
が増えたことは確かです。

昨年の末、高校生や大学生の若い人達との交流
を持つことが出来ました。

はじめはホームレスという人たちを見て、とま
どいの意味で何となくイメージが汚いくさいと、
言うような偏見の目で見られるのが普通の考えだ
と想います。けれど、交流の中で、ホームレスは、
そういった人たちではないと理解を示す若者もい
るのです。

私の感激は、学生が書いてくれた感想文でした。
一人ひとりの考えを読ませて頂きました。素晴ら
しい文章で、想っていることが綴られていました。
そういう想いで接してくれたことを感謝します。
世の中が厳しい状況の中で、これから進学する人、
就職する人、それぞれ違った道を歩もうとしてい
るこの若い人達。

その高校生の中で麻生さんという女の子が切々
と書いて送ってくれました。
自分の気持ちをしっかりと持って将来は画家にな
ると希望に満ちた気持ちが書かれてありました。立
派な心掛けです。私も感動した次第です。

一人ひとりが精一杯の暖かい気持ちの持主である
と思います。

ホームレスとの交流で少しでも我々仲間たちの
気持と苦難を知ってもらいたいのです。

このような若い人たちにエールをおくると共に
に、今の世の中が少しづつ良い方向に向うように
祈る私です。

詩

新宿のかつちやん

冬の海
なみにただよう
ブイのよう
人の思いも
たちおうじよう

冬の夜に
命と体
あずけさり
ねむりについた
風来坊

春さきに
出会う仲間の
やさしさに
思いめぐらす
一期一会

短歌

いわやまさど

世渡りになじめずいさかひくり返し
半端なままに生きつきて居り

痛み足をなだめすかしつ高足場
ふらつく心に気合ひをかけて

うららかや手つばをつけてツルにぎる
土工の気概を人は笑へど

けり石のごとき生活の吾なれば
妻持つ夢に一人魔羅する

(前略、「ろじゆく」のせてもらい大変
うれしく思います。なかなか思うよう
にいかない毎日ですが、はげみになり
ます。ヘタな歌ばかりですが、だれか
読んでくれると思うと、何となくうれ
しく、今月も又出します。
「ろじゆく」の皆様や路上のなかま
の御健康お祈り申し上げます。
用紙と切手、本当にありがとうございます。
大変助かります。)

無題 雑草

初めて投稿する者です。
新宿連絡会、諸先輩方々、皆様の
努力の御陰で、生活保護、行政の御
世話に成って居るものです。

担当の方と一緒に高田馬場クリニ
ック、精神科、アルコール依存症の
病院に行き、アンケート用紙に○印
をつけたところ、貴男は立派なアル
コール依存症ですと診断され、上野
保護所で朝六時頃起きると、事務所
で「シアノマイド」を飲むように成
りました。

今、思うと保護所の生活は自分に
とって楽しい思い出ばかりです。
三カ月位で更生施設淀橋荘に移り
ました。更生施設に入所した日から
「シアノマイド」を飲むのを止めま
した。

日曜日、祭日、以外の日は、午前
十時〜十一時の高田馬場クリニック
の通院には通いました。暇を見つけ
ては紀ノ国の本屋さんに行つて、ア
ルコールに関する本を立読しました。

今の医学では治ら無いと言う事、
感知、本を読んで学びました。タバ
コとお酒は「セット」なのでマイル
ドセブン三十本位吸って居たのです
が、どの本を読んでも「タバコ」に
関しては良い事が書いて無いので止
めました。

保護所、更生施設、所長さん始め

指導員の方々には、唯々、頭が下が
るばかりの毎日、楽しい生活でした。
人間の生き方を御知えて呉れた自
分には生涯、忘れる事が出来ない、
感謝、の毎日でした。
今迄、自分勝手な「一方通行」の
人生を過して来た自分を反省しまし
た。

アパート生活を一人で暮して一年
三カ月位ですが部屋を借りた記念
に、35焼酎一八〇〇mlを買って有る
のですが、今も、そのままです。酒
を飲むという事は自分の脳を「マヒ」
させる事です。AAミーティング、
断酒会には一度も行った事は無い。

保護所、更生施設で、夜、寝れな
いと云って「スイミン華」を飲み続
け、一時金が支給されると「スリッ
プ」してその「スゴロク」中毒をし
て自律神経、末梢神経を侵されて居
る人を多数、観て来ました。そして
死ぬ人も。本当にアルコールの恐さ
を学び、知りました。

生きる権利、自由、死ぬ権利、自
由、有ると想う。
今、自分は「幸福」だと想って在
ります。

一、タバコを吸って居る人とは会
話しない!
一、ストレスが、たまる人とは接
近しない!

乱筆、乱文にて失礼します。

春の雲 風来坊

暑さ寒さも、彼岸まで、冬来たらば、春遠からじと、古き諺にあるが如く、春の訪れを肌で感じた時、冬の寒さに耐え、人に踏まれ乍ら忍耐と努力で土筆が芽を出す如く、私も人生の春を味わう気持になる。彼岸も過ぎ、空に浮かぶ雲の動きも、灰色に鮮かさを増して来た。私は孤独になる時は、いつも縁側に坐って空を見る。拡大な空、雲の動き、時には心を曇らせる様な雰囲気にもなるが、春の雲は何処かが違う。人間に動物に野鳥に、山林にありとあらゆるものまでが、心にゆとり敏感さを与えてくれる。先輩や、露宿に掲載されている、又、路上生活をやむなくされている仲間、今まで冷酷な、厳寒にも耐えてこられて、この暖くなつて来る季節、希望と夢が湧いて、列車が長いトンネルから抜け出した様な気分だと思えます。空を見て雲に何かを語る時、幼なき頃の思い出、夕焼け雲を背にして、明日に向つて生きる、望を味わい乍ら、雲はいくつなア……私は雲になつて見たい。悩みも、悲しみも、雲と共に流されて行きたい、と思つた事が、過去何度ともなく経験しました。雲よ、雲、我が思ひ、我が悩みを解いてくれ

と叫んでも、雲は知らぬ顔、己が雲になつた立場であると悟つた時、雲はいつも私の心の中に存在しているのだと思ひ知らされる時があり、人生にもさまざまなき甲斐があるように、雲にもさまざまなき呼び名もある。夕焼け雲、いわし雲、浮き雲、流れ雲、飛行雲、雷雲、まだまだあるが、雲それぞれに諺がある様に、この世の中も然り。私は現在七十歳になるが、まだ夢も、希望もある。それを与えてくれるのは、神でも仏でも無い。空に舞ふ無限の、春の雲、そのものです。数ある季節の雲の中で、私に恵みをくれ、安楽な気分になさせてくれるのが春の雲である。私も中央公園に寝転がり、春先きの空を眺めた頃が脳裏から離れようとはしない。なぜなのか、それは路上生活者体験者であるからである。仲間とカンパを繋り合つた、あの雲の下、公園の芝生も青くなりつゝ、草の上、その瞬間、私を生にと導いてくれた、あの雲、又、先輩達、新宿連絡会、関係者の人達に、春の雲と一緒に感謝せねばならない。春の雲よ、私を見守つてくれて、有難うと、声、一杯、張り上げて、叫びたい。雲も又、私に何かを、語っている様だ……

縁側で

じつと見上げる 春の雲

我れを忘れて 過去をば 偲ぶ

三月二十三日

**職能・無職能ボランティア
ア常時募集中(資格・年齢
問わず)! いつも人手不足
の新宿連絡会はあなたの
才能生かします。**



新宿連絡会
NEWS VOL.22

やり易いので各社会に!
路上生活のない! (資格なし!)
別冊の拡大、拡大を!

新宿連絡会
東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会新宿分付
TEL: 03-3876-7073/090-3818-3450 FAX: 03-3876-7073
http://www.jca.apc.org/nojukusha/shinjuku
E-mail: inaba@jca.apc.org

東京の路上支援運動を知るなら、
新宿連絡会NEWSを読もう!
VOL.22号 好評発売中!
『特集「ホームレス白書」は是が非か?』
B5版15P 定価100円お求めは
手紙、FAX、メールにて。

新宿連絡会

111-0021 東京都台東区日本堤 1-25-11 山谷労働者福祉会新宿分付
TEL: 03-3876-7073/090-3818-3450 FAX: 03-3876-7073
http://www.jca.apc.org/nojukusha/shinjuku
E-mail: inaba@jca.apc.org

<カンパ金送り先>

郵便振替口座: 00170-1-723682「新宿連絡会」

*カンパ物資は土日指定でお送り下さい。



平成二年、初春の季節、一人の男が汽車から上野の駅へ降りた。

男の服装といえば、草臥れた背広とコート、靴はそうとう歩いたのか、右と左の踵がすりへって歩きにくい感じで歩いていた。

男は、コートの襟を立て、中央口より、あやめ横丁方面へと歩いて行った。

男は、一件の定食屋に入った。

腹をすかせていたのだろうか、親子丼とラーメンを注文すると、あっとゆうまに食べつくしてしまった。

男は、トイレを借り用便をすませ、手を洗いながら鏡に自分の顔をうつし、ひげだらけの、暗い瞳のおくに何を見いだしていたのだろうか。

男は、わずかな手荷物をもって、店をあとに、上野公園へと歩きはじめた。

腹はいっぱいになったのか、途中の酒屋店で、日本酒の五合瓶を買った。

それを、黒いバックに入れ歩きだした。

その日、東京はポカポカな陽気のようだった。

男は、動物園入口の広場のベンチにこしをおろし、黒いバックの中から、日本酒をとりだすと、ちびり、ちびりとうまそうに、のみはじめた。

それから何時間たったのだろうか、夜汽車にのって、ほとんどねむっていないせい

か酒のほのかによって、手荷物を、まくらがりわりにして、しっかりと、ねこんでしまったのでした。

さむさを感じて目を覚まし、あたりはもう暗くなっていて、空には星がいくつか輝き、公園の下の道にはネオンの灯りが見え、時計を見て、しっかりねてしまったものと、つぶやきながら、上野街のネオンの人ごみの中へと消えていった。

男は、右足を引き招り歩いていた。土木作業の現場で怪我をしたという右から膝元の下から骨が折れたとゆう、そして命より大事な、二番目に大切なお金も使ってしまった、会社からは、一時見舞金しかくれなかったという。ポケットの中には小銭しかなかった。

それから、ねる場所、食べものさがしをもとめ東京の街を徘徊してまわったのでした。

男は、初春というのに、雨がふってもぬれないビルの庇のあるビルの谷間で、あまりのさむさで、悪い膝元をさすりさすり、すこしでも温くもりがほしかった。

寒さのために立ちあがったその時右足に、激痛がはしり、すわろうとしていた足元に一枚のチラシがまとわりついた。

唯々の紙くずだろうとおもいながらも、ひろって見てみた、チラシに書いていた 新宿

連絡会と書かれ、いくつもの日程が書かれてあった、読んでいるうちに、何げなく日曜日のところへ目がいった。その行事のところには、午後七時、炊き出しと、書かれてあり、何んのことだろうと、おもった。通行人に聞いたら、今日は日曜日だという。男は明治通りを、足をひきずり、頑張りながら新宿中央公園に向った。時間に対して、不安と絶望感がよこざる中、目的地についた。

俺と同じような人達が、歩いているのを、見つけ、人達のうしろからついて歩く、おくれないうようにと。

男の心に喜びがうかんだ、三日間なにもくわず水だけの生活だった。

男はおおく集っていたのにおどろいた。

やはり、人生生きてゆくためには、様々な困難とぶつかり、それが、駅から駅へとつなぐ終着駅だと男はおもった。

男は、皆んなに悪いながらも、三日間の空腹を、ドンブリ二杯を食べて腹をみたした。そこで男は様々なボランティアの仕事を知った。

暗くとどろされた心も、一日毎にすばらしい過去から現代にさそいだした。新宿連絡会での人々の温もりのある心。

もし、あの時、あの一枚のチラシが目に入っていなかったら男は死んでいたでしょう。その路上生活の仲間がいるからこそ、生きることで、ボランティアの協力こそが、支えていることを、

わすれずにいます。

二〇〇一年こそ、それぞれの男の心のロマンスもって歩く、人それぞれくぎりある終着駅、列車は歩くように、ガタンゴットンと、くじけず、あせらず、明るく、楽しく、歩いているか走っているか、男は男のおもう終着駅へとむかっている。

炊き出しの時、足を引き摺りながらきていた男は、その後、酒を飲んで、仲間同志に刺されて死んだという。

私もおもった。刺されて死んだ男の生き様に対して、己自身の過去をダブらせて、地平線の彼方から朝日を見ながら、こう心の中で、さげんでいた。

人それぞれの終着駅、己自身の終着駅には何がまっているのだろうか。(完)



短歌 清翠

戯れる童の姿見つめれば
幼き日々の我れを見い出す

御神くずを引き答えは大吉と
心改らたな初詣でかな

満天の輝く星を見上げれば
故郷山河春の雪解け

皆さん、スマイリーを・・・
ご存じですか？

・・・スマイリーは黒人男性であり
強度の吃りなんです。
吃りながらも彼の言うことは

・・・ア・パ・ル・ル・ルト・へ・へ・イ・イト
ハ・ハ・ハ・ン・タ・タ・イ!!
誰もスマイリーの云うこと
聞いてはしません

でもスマイリーは

それでも云いつづけます

スマイリーをからかうように

皆なスマイリーを笑います

・・・吃るまねして・馬鹿にするように
でもスマイリーは

それでもいい続けます。

・・・ファ・ファ・ファ・イ・ト・ト・ト・

パ・パ・パ・ワー!!

ア・ア・ア・パ・パ・ル・ト・ト・ト・ヘイ

ト・ト・ト・ハ・ハ・ハ・ン・タ・タ・イ

詩

秋戸 空

スマイリーはここ・山谷・新宿・・・
たくさん・いるようです。

吃ることもないけれど
何人ものスマイリーが・・・

野宿者の強制排除 やめろ!!
野宿者の強制排除は許さない!!

スマイリーのように
一人でなく

皆なで叫びます!!

「飢えているのに・・・」 01、1、6

埃だらけのたわごと

喚く〈政治屋〉ども

喚いたあげく

『お前らたらふく喰らえ!』・・・と

絵に描いた 〈餅〉を見せびらかす

そんな物だけでは・・・

あんたちの云う言葉と絵だけでは

腹はふくれなんだよ!!!

あんたらの垂れ流す

イデオロギーを拾って喰えだど!

ふざけるな!何を云ってるんだ!

何故そんな事しかいえないんだ!!

まともな食い物

喰らっている連中・〈支配者〉お前たち

この輩どもは・・・

そう言って食う物に困らず

肥え太っている・・・

・・・一方、路上生活は
話し相手は〈アスファルト〉ばかり
その道・だけが話し相手
だつてその道の上で寝てるんだもの・・・

誰かが投げかける言葉

心臓の小さな時計に刻む・・・

俺たちほしいのは・パンと

仕事と・ねぐら・暮らしたぞ!!

首都の心の粗暴なときめき

そこで皆んなは・〈世間〉の

社会性・を・趣味を

『なぐる』・『けとばす』・!

都庁広場に身を横たえて・・・
夢かかった・詩人の独り言

有権者をよぶ立ち会い演説会

喧しいエンジンの音のようだ!

演説者は尊大にかまえて

戯言を繰り返す

「・・・これがその答えだ!

ほら・もつてけ!」・だと

お前らの喰い残しなんて

喰えるかってんだ!!

馬鹿に・・・するな!!!

・・・でも俺たち・いつだって

食えないでいるんだ・・・

どうしてつて・仕事もねえしな

でできもしねえ・・・

誰に云ったらいんだよ

俺らのこのきもちを・・・よ

こんな状態を・・・よ

~~秋は、一人で淋しく~~
~~歩んで~~

あなただけ みんなと一緒に

歩し、ただお金だけ

求めて、余さるさ

秋は、一人で淋しく うがい

~~歩んで~~ 求めて ゆっくり

歩んで 行きました

01年 3.19

先週は どうとこ

一ヶ月も 話してさん

でしたね

秋戸さんの健康

状態が 悪いと思

いますけど

~~秋~~ いろいろと 話し

をしたかったけれど

秋の話を聞い

てくれるのは秋戸さん

しかいないので 淋しい気持ち

ホップ・ステップ・ロダン

只野酔私



「ロダン、どうしてAAに行くの？」と聞かれた。

私はAAを必要としているのですよ。AAは私に言っているのです。AAに来たいと思えば来ればいい、来たいと思わなければ来なければいいのです。簡単に言えば、私はAAを必要としているが、AAは私を必要としていないということです。アルコール依存症者のためのリハビリ施設では、多くの人が行きなさいと言われるから行っている。AAに通うことが義務付けられている。仕方がないのだ。

サラリーマン社会では、あなたが頑張らなると会社は成り立っていかないと教える。会社は利益を追求する。あなたがいなければという精神を植え付ける。その精神が利益を生む。が、しかし、どんな会社でも、そのあなたがいなくなってもピクともしない。つぶれた会社など一つもないのだ。このようなサラリーマン社会に育った人間がAAの中に飛び込むと、AAは飲酒を止めたい願望があれば受け入れるから、中心になって活動していると、いつしか、私がこのAAにいなければAAが駄目になってしまうと考える。これが大変な間違いだと気付くことが大切だ。

施設についてよくある話がある。他人の事が気になるのだ。全員で協力してやることがある。今現在、私の施設では、朝の掃除、食事

の準備、共同生活上での各人の接点、公共の場での施設とでもいおうか。門限を守らないのはどうなっている。掃除をしない。配膳当番なのに時間になっても来ない。AAに行っても途中退席をする。印鑑をもらってすぐに帰ってしまう。タバコを廊下やトイレで喫っている。あの人はどうだ。この人はこうだ。等よく耳にする。

ある人がいった。「誰れかがいわないと施設が駄目になると思うからなのですが、注意しても、いうことを聞かないばかりか、くっつかかってくる。ロダン、どう思う」と。

私がここに来ているのは、私が酒を止めるためです。もし配膳当番で来なければ、それは忘れていきます。私なら何もいわずに仕事をやり進めますよ。自分自身ができることを、ただ黙々とやればいいと思いますよ。規律に違反した人がいてもそれは私のことではないのです。規律違反に靈的成長はないのです。

私は決められたこと、AAの12のステップにある通りに行動するだけです。昨日よりも今日、少しでも改めることがあれば改めればいい。気付くことがれば実践していけばいいのです。他人に対して注意することはしません。私が実行して、それを継続していけば、必ず気付いてくれることでしょう。この施設にいる間に気付かないかも知れない。しかし、

いつかは気付かなければ酒を止めることはできないでしょう。それは死を意味するのです。どんなことがあってもおだやかに生活できるようにしましょう。他人のことはいいのです。私が霊的成長を願ひ、常に切磋琢磨して、不平、不満を言わず、批判をせず、いつもにこやかに生活できればいいのです。施設のこととは職員がいて指導するでしょう。とにかく、私がお酒を飲まないで生きていければいいのです。お酒を止め続けるには、AAミーティングに参加し続けることしかないのですよ。

また、AAに通い続けることがお酒を止める唯一の方法だと信じられるようになったのだから、AAに楽しさを求めたのです。AAを私の樂園にしなければいけないと思ったのです。そう思うことだけで、ずい分楽しい思いをするようになりましたよ。仲間も日に日に増えました。そうすると、増々AAに身を置くようになるものです。とにかくAAは受け入れてくれます。グループに入ってからというものは、会場を開けてコーヒータ等準備して待っていると一人でも多くの仲間に来てほしと思うようになりました。初めての会場に入りにくい。挨拶しても返事もしない。ふんぞり返って偉ぶっている等話されている方もいますが、それは私がそう思っているだけで、声を掛けても聞こえていなかったり、ふんぞり返っている人は、長年そのような態度をしてきたから、なかなか修正が効かないだ

けなのです。たとえば、私は「ボク」というもいってました。今でもそうです。土方をやっていた時のことですが、社長が「ボク」と言うのは止めなさいといってきましたが、私は最後までオレとは言えませんでしたよ。50年も私のことを「ボク」と言っていたのだから、そう簡単にはいかないものです。それは長年にわたって培われたものなのだから、私を受け入れればいいのです。AAの方たちは、誰一人として新しく来た人を拒否したりはしませんよ。温かく迎えてくれますよ。とにかく一人では生きていけないのです。仲間と、そう、お酒を飲まない仲間づくりをしていきましょう。

そして、AAに最も大切なのは平等という感覚だと思えます。一杯のお酒を飲めば10年のソープのある人もたちまち入院です。アルコール依存症は完治しないのです。ソープが15年の人だから、10年の人だから声を掛けられないというのは間違いです。遠慮なく声を掛けましょう。当然厭な顔などするはずがないのです。ソープの永い人ほど、人格的に素晴らしいし、私が教えられることが多いのです。スポンサーシップをとっている、いないにかかわらず、相談すれば親切に、やさしく教えてくれますよ。私が心を開けば、キットAAは楽しくなるものです。私はもうどうにもならなくなったのだから、私はどうあがいても良くなることはなかったのだから、私は

AAを知るまでは、死ぬことしか考えられなかったのだから、私はAAを知って生きる喜びを感じるのだから、当然可能性のある限りAAに身を委ねて生きていくのです。とにかく私自身が変わることです。飲んでいたところをかえり見て、正気になって、新しい考え方を学び、新しい生き方を思索し、行動して、生活していくのです。

AAに 身を委ねてる 白百合は
幸多かれと 友の笑顔に

AAーアルコールクス・アノニマスの略。
自助グループ。飲まないで生きていき、ほかのアルコールクスも飲まない生き方を達成するように手助けすること。



地獄の天使

秋戸とジュエリーより

私達は頭が悪く

顔が悪く、どうしようも

なくこの山谷の住人になっ

ているのであつた。だがじ

私はずの中で唯一の悪は

無知で顔が悪いか、

社会的悪だと思ふ、

〇一年
3/18

お酒に酔っ払って

夢の中の自分

酔っ払いがじさめた自分

をみつめるとあなしただけか

残っている。どうしようもない自分

それだけが山谷で生活している

イヤイヤでも どうしようも

なくただ生きてゐるだけ

どうしよう？

〇一年
3/18

愚かひ太郎

おまえは、どこから来たのだ

太郎、俺も知ってるうちに

自然に山谷に来たのだ

酒が好きで、仕事かたがた

山谷に来たのだ。

21年

自分はスキで野宿をしているのではない

わけあって実家に帰えれないだけだ

俺をすてた身内が世界一にくたら

しい俺はこの生活をしてぜったい

負けぬことはない。新宿の野宿人

三十五才

路上営業広告

私は路上生活者の仲間の散髪をしている青空床屋です。

先日、散髪道具を盗まれてしまいました。

散髪道具を購入するためのカンパを宜しくお願ひします。

現物でも構いません。お願ひします。

宗春

連絡先は

☎170-0014東京都豊島区池袋1-14-5-13 ろじゅく編集室気付 宗春
カンパ金振込先は、あさひ銀行 豪徳寺支店 普通 1176128 オサノ アキラです。

朝太郎の箱船

鈴木克彦作

みなさまさようならの巻

二、アクマの啓示の章

キチガイ部落の村長の朝太郎の夢枕 アクマ
さまが現われて朝太郎にささやいた

「七日たった雨が降る 四十四日雨が降る
世界中の人々みな死にたえる

だがアクマのピンクメガネに叶った朝太郎
お前達マルキブラクの人ほ生きのびろ
大きな箱舟作ってその中に ならず者やブ
ライ漢 ハクチやノロマに超天才たちを
引き込んで

つがいの動物植物や昆虫類に細菌類をつ
め込んで どことなりと船出せよ
決してネズミとエビカニ切り干し大根忘れ
るでない——」

と言ったそうだが 見た人も聞いた人もいな
いから 朝太郎のネボケかも分からない
ウソ八百かも分からない 常に真実と事実と
ウソは分からない

真実を知ったる少数者は 神のヒミツ神の嘘
を垣間見た超権者 フトドキ者とされ
気違いか自殺か雷り撃ちに追いやるのだから
神サマってのは空おそろしい

さらにアクマさまはささやいた

「神々共は手をやき腹カイク 手を変え品
を替え人々を さんざん正道に連れ戻そ
う 助けよう 救おうとイライラし 長

い間待ったり信じたりしていたが
カンニン袋の緒が切れた もう許せない騙
されない 人はますます悪くなるばかり
イッソ皆殺しにしてしまおうと、無始無終

唯一を誇る下偉い神様達が 神族会議を
開いて討議した

さんざん飲み食いし しゃべり散らした
その後で 今まで人類を脅かしてきた
はずの

人類滅亡の切り札を使うことに一致した
人類ミナ殺しのそのあとに もっととい
いもの創って住ませようと考えた
中にはそれでも人を信じたい と言った
神サマもあったようだけど

神主の神々方の議会制多数決にはかなわ
ない 地球上に大洪水を起す案に従った
洪水を起すため水を司どる神々集めて
老若男女の神様タチがイッセイに ジ
ャージャー小便することに決まったのだ

ハマグリ観音にボセイドン サラスワテ
イ ガンガー女神を頭にのせた性殖神
で雨を降らせるシヴァ 転輪色欲聖王
に 竜神様 湖に眠る大蛇神など
そこへアクマがしゃしゃり出て 神々方
に 皮肉った 抗議した 願い出た

どうせ神々方がダメだとサジ投げた 人
間虫の善だの神をアガメル心だのは
もちろんアクマのわたしも信じていない
だから人間の善なるものを採らないで
悪だけのものとして生かしてみろべきだ

殺すのはアクマの好きな仕事だが 神々
がやるというのなら仕方がない 確率
100%の大洪水でやるがいいよ

だがこのアクマ奴にも少しはチャンスをと
くれよ ノア一族みたいな善人じゃなく
サジひとすくい心悪しき者共を もう
一度だけ生かしてみろのもいいだろう

前代の生き物のサンプルに残しておくの
もいいだろう

神よ 自分の姿に似せたはしたが 神の
エキスDNAをぬいた下手な細工のコ

ビー人間などを創ってにおいて
不完全なものに善やら真理やら 魔神す
らマネできぬ信仰などを無理強いし
それができぬから気に入らぬ 愚だから
ナマズルイから 神の禁じたハイテク

だの高度な科学をもったから
人間ミナコロシしてしまえとはあんまり身
勝手すぎないか 無責任にすぎないか
人類の代りに別なるものを創ろうとは
何事か それもダメならまた絶滅させ
るのか

かつて神を畏れず大暴れした三十トンも
ある大恐竜達を 天に至らんと増長し
たシダやウロコギを氷で冷やし 蒸し
焼きにして絶滅させたあとの哺乳類
どれをとつても神の能力を与えぬ模造品
そんなものに何をさせても土台ムリ

何回考えて創っても同じこと
カンブリア紀を始め 二億五千万年前の
二疊紀末 六千五百万年前の白亜紀後
期 それでなくとも二千六百万周期で
大絶滅をくり返しているではないか

今迄に何度も下らん物を創り上げ 手前
の下部として生かしておいて恩を売り
神の存在と賞罰をたき込み

それまでして祈られたいか崇められたい
のか 第一神々にしてからが みな自
分こそ唯一絶対だとわめく輩じゃないか

ハハハ確かにそうだ 菌や昆虫達よりも
人間虫の方が神に祈ったり犠牲をササ
ゲタリはするが その反面 反逆した
り裏切ったり試してみたり 戦争に負
けた側の神像や神殿を壊わし信者を

殺す

ハハハお陰で神は食えなくなってオチブ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

レて
妖怪やらひだる神 乞食・貧乏神にまでされ
たんじゃ面白かねえ
そんな大小の神々だって 神同志争ったり 殺
し合ったりしてるじゃないか

―見事に意表をつかれ 笑われまですした神々
は 下卑たアクマの矛盾を知りつつも
しぶしぶアクマの要求受け入れた 神にも例外
やヨワミ ホンネの建前アリ得た訳だ
いえ それ以上に神議会は多忙をきわめ 新生
物の試作に論議に明け暮れしてた
水が引いた地上に何を住ませようかと どい
つもこいつも自分が天地創造をやらかしたと
信じてる御神達

次の創造物の作品に神々の様々な意見やヴィジ
ョンが乱立し 派閥の抗争があつたから
神々が騒いで決め兼ねていたから ケチなオ
レ様アクマを放逐できなかつたし 仕方がな
い 新生物が悪人共を食い尽すまで そつと
しておこうと考えたのだ―
最後にアクマは優しく秘宝を伝授する

―よいか朝太郎 人は神の手で粘土をこねて
土偶を作つたが 神が息を吹きかける前 ア
クマのウンチにわいた蛆虫が土偶の中に潜り
込み 宿カリよろしく動き出したもの 神の
祝福受けちゃつた
だから神にすまない気持ちも強いのだが アクマ
の知恵と神の愛があつたればこそ 万物の霊
長となつて地上の覇者にもなれたのだ
そうだろう アクマのエキス神の息吹きは 蛆
虫だからこそ人は欲深く 誠実で 淫乱で善
良で邪だから 精力増進まで考えあげ
て 蛇神が木の上に産んだ卵をふたり

で食べるマネまでした 今でも人は鶏
の卵を取り上げるだろうが
アクマの子 神の子だからこそ さまじ
まの危機を乗り越えてしぶとく 愛と
憎しみを持って全滅をまぬがれてきた
だがしかし神の決定 六十億の人間亡ん
でも 六十のガンジスの砂の数ほど悪
功德悪陰徳ある朝太郎お前だけでは生
きのびろーアクーメン―

夢を破つて飛び起きたる朝太郎 アクマの
御託宣が強烈で感激し あわてにあわて
思い立つたが大凶日とばかり セツシヤ
クワン向うハチマキで行動起す
資金だ金がサツ束だと 返すアてもない大
金をサラ金業者から借りまくり ⑦ブラ
クの土地とマザー牧場と発電所を三重担
保で金を引き出した
悪の権化の朝太郎 悪は急げとその日のう
ちに大金投じてスクラップ寸前のボロの
船 十万吨のタンカーを千葉の港で買
い込んだ

買った尻から陸に上げ 修理改造やり出し
た 油タンクに発酵装置を取り付けて
ガス貯蔵庫やガスタージンも設置する
その一方 最寄りの汚物処理場や汲み取り
業者に頼みに頼み ワイロそで下使つて
ウンチをかき集め 油タンクを二十万ト
ン余りの満タンウンチにしてしまふ
更にもその上放送局や新聞社雑誌社にムリを
通して道理を引つ込め 莫大な広告料を
払って願ひ出た
この世も終り世も終りアクマの鐘は七つだ

と トラ方もないコウトウ無形文化財みたい
な大洪水の予言をぶちまける
―と そんな運びにまでなつたけど 実際
こんなバカ化した予言バナシを聞く人々は
下らぬマルキ発電所の宣伝か マザー牧場
の牛肉のコマーシャルぐらいいにしかり理解し
なかつたようだ

シヤバの連中 何かにつけて⑧ブラクの人々
を恥しめ 笑いバカにしコケにして 電力
と牛肉は買ってはくれるが
世に孤立して山の中に作つた汚物発電所や
バカあほクレイジー達を使って創り上げた
マザー牧場の頭の話など 始めっから何を
か言わんやと聞く気もない
だが朝太郎 世界の人々を救おうとする決意
と勇氣は コンゴウ石のように固く 馬券
の如くにカタイ

三、アイウオンチユ―の章

二日目は世界中の首脳 大統領に電報書簡を
送り 近づく危機をば訴える クレイジ獲
得のため走り回る
だがシルクハットを被つた御老体 アクマの
様相で朝太郎 人をユビ指し晩んでアイウ
オンチユ―と この世の終りアクマの啓示
を語つても

常住坐臥 良いことしか考えない人々は た
だ笑つてバカにし追いつけずばかり なんせ
アイウオンチユ―マッドマンの凄まじい
カオスがバカクサくて応募する気になれぬ
いざとなりや 神は言わずと知れたこと ア
クマさえ三枚の金貨で売渡しかねない善良
市民 神もアクマも必要な時のみ使うだ

け

それでもクジケズ朝太郎 ピラ号外に張り紙チラシに辻説法 南無妙法大魔神と祈りつ叫びつ 身命財産惜しまずに ありとあらゆる方面チャンスに尽力す

死にも狂いの折伏人助けにニシ東 ところがどっこいこの世は甘くない さんざん宗教家共にウソ八百並べられ 首をつり田畑を取られ娘を売った恨み深き善人達

聞きあきたこの世の終り説など 猫もシャクシも信用しない まして氣違ひ悪党共にヤダマサレヌ

いつの時代も人は汚なく世は悪いのに 人類の滅亡だ末法だ最後の審判だのと 行者信者はあまりに早々と軽いタツチで言いすぎた

あまりに多い嘘デタラメ予言に神の数 人々そんな下らぬバカ気たことよりも 黄金第一 科学は二番 三時のおやつは快樂と飲み食いカラオケだ

南無カネクレフォームの題目ネン仏の方がありがたく 救いの特効薬の銭ッコばかりが世にハバカリ 金もたまれば山となり お金を通れば道理が引つ込み 論よりお金で 猫にも小判 犬のような者でさえ歩けばお金に当るから止められない

それだけでなくとも汚職脱税カラオケ観光旅行と 廢退文化色氣文化に目の色変えていて バカな話など聞く耳持たぬ

石頭に常識にコテイ通念概念保持の普通人 理窟法律権利暴力を振り回しての二千年 騙されぬ利用されぬ裏切られぬ 証文以外に人や神など信用せぬ強い者達だ

だが朝太郎 眠ってなどいられない 三日目も働きぬいた募集しぬいた

「——立て万国のクレイジー 地獄は近づいた アイウォンチューマッドマン! アクマの戦士 集まれ万国のバックキヤーロー 己の悪と狂いを 自覚自問せぬ恥かき人

まともな宗教団体より追い出され 刑務所さえ入獄拒否された 特等精神病院大医師でさえもナオセない

親兄妹 まして遠くの親戚も近所の者にもムシされ見捨てられ果てたる悪狂人 来たれよ兄妹同胞 地獄より逃げ出そう 守るも逃げるも赤錆の 十万トンの汚物船

世界は広いが住む所もないゴミ人間 スグレて優秀すぎて偉すぎた 人間というより先に肉の塊り方よ

朝太郎 快刀乱神は語らぬが 国の宝 世界の金塊 ゼン宇宙を支配する 変人奇人狂人痴人悪人天才は死なせられぬ

すぐに来たれよ巨人族なるキ印連よ 目印は千葉県の言わずと知れたキ印湊 今に空もミナトも大曇りに大雨おこる

但し千客万来 余り来ては船沈むナリ——」 四日目も(キ)印部落の村人は人探しに船ナオシ

ガスパイプ取り付け客室づくりにおオワラフが 嘘やベテン仕事はうまい方じゃない 何しろ人望がなさすぎる シャベる前に黙らせられる悲しい因果の連中

それでも少しぐらいいは集った タグ泊りタグ飯 食いを聞き込んだ 物見遊山の変人ヒマ人獵奇人 仕事もしない風太郎 中にはマジメにやって来る者や 外国からチャーターフライで駆けつける

ヒッピー 捕鯨反対者にオカルト狂に平和愛好家 風癩病院を脱走して来たやつもある

だが朝太郎は暗い顔 もっともっと救いたい 一人でも悪人クレイジーを助けたい 船をもっと修理解造計りたいと 両手を振って悪しき道を説きまくる 悪しき資金カンパを訴える

悪人でも救われるのに普通人をやと 世の善男善女にまで手をのべるが彼らには 自らの悪も善も自覚できず耳をもかさぬ金ならもっと貸さぬ

地球上の人類滅亡寸前までも 変人クレイジーを軽蔑ヒボウする氣構えだ 船員や各技術者も集まらんので大募集

「船員及び土方及び百姓ギジュツ者大募集 給料——ゼロ 賃上げなし 食費タダ 労働時間——好きな時好きなだけ

義務——資源確保のためムダな流れしを止めて大小便は所定の場所で行うこと 資格——なるべくクレイジーであることが望ましい

刑歴 病歴 病名 国籍 老若男女を問わず——」 ああ! 五日も空しいままに暮れてゆく

万国のクレイジーよ集まれと 朝太郎あらゆる手管を使ってガンバツタ 信頼おけるキ印アホ印アクマ印の友人達に 国際電波法まで無視して無線を送り 電報電話に特急為替で現金を送りつづけた

朝太郎 最後の手は使わぬ 雨が降り出してパニック状態に入ってから 自らがいる千葉地域内での特別行動

モヨリの刑務所や精神病院を強襲して彼らを救うこと 手はずや武器や闘士達は集まっている 六日目にはドンと乗客千人も集まって来た 福

島のマルキ発電所から全員と 彼らが連れてきた人達

フタを開けてみて驚いた トンデもないのが混っている (キ)印ブラクの関係者とはいえ 地方コーム員や新聞社イン放送局に水道局員 自衛隊や警察官 医者に修道女とPTA会長 セン公にエリート社員までいるではないか

かつて日本を経由してアメリカに逃れたユダヤ人もかくばかりかと思うほど もちろん驚く方がマチガイなのだ 彼らだつて人知れずこそ思いそめしかの悪心の呵責があるはずだ 何よりも朝太郎の宣伝が一番早く伝わる所の 一番早く宣伝広告放送を握り潰しゴミ箱にポイと捨てたり 同情したり

キ印募集が大眾に伝わるのを しつこく防いだ 当事者だが それが奇妙に心身にまとわりついて何んとなく 痴人狂人の真心が見えた感じがしたらしい ちょうど精神科医が一番狂人になりやすいように 宣伝が国内外に広まらなかつたのと裏腹にキクやつらにはよく利いた それもそのはずマルキブラクにブラブラと監視に来ていた 役人や技術指導官に医師だつたから

それでもこの世の終りになってやつと目が醒めた 有形無形の普通人こそありがたい これも前世の悪因業の報いだと そんな人に 合掌する朝太郎もありがたい

いつまでもあると思うな親と娑婆世界 タイムは矢のように飛び去り 七日目の朝はやつてきた 下らぬことは言つてはおられない 船の修理解造終つちやいねえ 急げや急げ 食料も水も薬品もエビカニも 十分に集まつてはいない

何しろ無脳を誇るケイサツ漢やその他の物が邪

魔をしすぎる調べすぎる バカにしコケにしすぎる どっちがバカか色別デキヌ

この忙しい時に 無能な上に大良心ダイ無知識のイヤラシキ御役人は 狂気準備集合罪や食料買いだめ罪 不法造船罪に汚物運搬違反で責めたてる これで国から金をもらい 年金退職金に恩給が何千万! この世で一番愛される二百%の正常アタマ

人類破滅時 いや手前か死ぬ寸前まで 頭八部に割られても 七度死しても業務遂行する獣石頭のブロックヘッド こんなモノこそ世界の飢えたる何億人のため 己の肉を提供すべきだ ナーニばらしてしまえばどこの馬の肉だか分からネエー が遅すぎた

親孝行と善行は早くしておかねばならん でもアクマの力添えでラッキー至極 何しろ国内では大善人の首相や大臣らが 五十億円のワイロを取つたとかカイロを取らなかつたかとかで

中善人小善人ら民衆の大乱闘 乱痴気騒ぎが始まつて 機動隊までが出動して 当局も(キ)印連中何をか言わんや 何をかやらんやとうっちゃつた 先見の明ある朝太郎 この日のあることちゃんとしていて

(キ)牧場の牛馬ひつじに犬サルきじの大群と 牛乳バターちぢ缶詰など大量に積込み 植物の種や飼料ムシケラから魚貝クローレラ細菌まで ネズミ算の如くに培養飼育できるものを搬入する もちろんネズミにエビカニを忘れない ホシ草も忘れない

人々ようやく千五百人を突破して (キ)の幹部連中ホッと息をつく

動中静かドナイセイ中か多忙の中にも朝太郎 町で悪人爛漫と遊び回る小供を見ては泣く

「手前らカマワネーから小供をひたたくて来い!」 と叫んで部下を教唆して 誘拐させて船に乗せてもいいのだが 何百日もの航海は親なくしては小供には無理

涙の中にも七日目の夜は更にフケてゆく さあ 急げ 寝たり食つたりしてはいられない (キ)の部落民 ゲップに屁をコキながらウオーツ サオーツ ブオーツと走り回る 神の大殺戮 人類ミナ殺しの日 近日大公開 神の御前にはヒットラーも信長も ベリヤの 肅正もワグナーの楽劇も形なしだ

この世をテンプクさせようとしたお縄トリオ 空を飛ばうとビルの屋上から墮ちたやつ 夢 精ばかりしている夢想家も 世紀末の大自洗者も 新世紀のセックスアピールも 泣いたり 笑つたりひつかいたり こんなクセー船に乗られつかと逃げ出す者 船室に壁絵を描き始める者

ヒンズー信者やキリスト教徒みたいに水の上を 歩こうとする者 止められて 信仰薄き者よ なぜ疑つたかとドナル そんな人達にどうか船に乗って下さいと嘆願する朝太郎はホムベきかなムベなるかな 嘘は常に善人にある アクマにはなきもの とうとう予言通り八日目の朝に雨は降り出した

人は神を見捨てなかつたが 神は人をお見捨てになられたのだった

新編

マンモス交番 (抄)

望月大成作

窓際や マンモス城で御停年

サツとて馬は

山に掃き捨て

たれ込めば口にチャックの案山子かな

マンモス城は

だんまりの術

金町の一言で仁王立ち

口真一文字

マンモスのデカ

気をつけで直立不動 昔なら

バカのヒロヒト

今は金町

大成

たれ込めばデカが三匹 仁王立ち

口にチャックで

案山子三本

元刑事

その通り 沈黙は金 世の中は

尻尾見せぬが

ウルトラの技

大成

もと、は誰が罪なる オウム落ち

なれ合い行政

サツと警備屋

元刑事

あきらめよ トップに一発 ズドン済み

それで清算

後は縁切り

賭博場は監視カメラの護衛つき

山日労の

ワル防ぐとて

公安課長

処置なしぞ 元はオウムのセーシン病

山日労に

争議団では

公安刑事

なればこそ使い道あり マイコンで

調教バッチシ

サツの言いなり

元刑事

警視庁 前代未聞の奇策かな

シンドラリストで

馬をマイコン

馬子

平成のシンドラリスト 役た、ず

強きになびき

弱きをいじめ

公安刑事

疲れたり 一筋縄では行かぬ奴

マイコンかけて

だまし、すかして

公安課長

手の内はさらしてならず オウムの出

いつ裏切りの

ユダになるやも

ニセ刑事

ポリ公なれどニセはニセ

職務偽り

馬をだますは

手の内を見せず相手の裏探る

デカと詐欺師は

紙一重の差

人見れば泥棒なればデカ見れば

詐欺師と思え

嘘の塊

ほろぶちゃん 見れば見るほど生写し

嘘とだましの

公安のデカ

浅警の署長も同罪 本庁の

ニセの刑事を

見ての見ぬふり

知らぬ間にサツチヨが笠のSとなり

浅警などは

どこの吹く風

市民とてサツとつるめば地獄道

落ち行く先は
権力の犬

元刑事

ありがたや 金のなる木はオウムかな
サツで稼いで

歌で名を上げ

大成

悪銭は身につかぬなり 竜宮で

遊蕩三昧

馬子儲けて

大成

過ぎたれば司法共助でお目こぼし

余生のうゝ、

左うちわで

元刑事

甘きなり 過ぎた事とてチャラならず

とうにネタ割れ

君は泳がせ

元刑事

まことなら百万ドルのSマーク

七千円とは

安くたゝかれ

馬子

世智うときセンセはいつもドジの馬

安物買いで

サツはほくゝ

浅警はどけちにあらば金町の

裏の分け前

一つとてなし

交通の安全協はニセ看板

マネーロンダで
サツの安全

公安刑事

平成のシンドラリスト 栄あれ

正義はまさに

君が手の内

大成

君こそがシンドラリスト 大成を

生かす殺すは

サツの手の内

ポリ公

心せよ ホンチョのデカは曲者ぞ

君はバツチシ

サツの食いもん

大成

アーチスト 御難は常にお国柄

昔変らぬ

苔とマイコン

大成

オッドロキ 歌姫呼んでダイナーショウ

サツの大奥

竜宮の城

ポリ公

えらいさん 今に始まることでなし

ホンチョはいつも

バカの集まり

大成

大ゲンカ やれるもんならやってみな

マンモス野郎は

肩をいからせ

元刑事

当り前 似た者同志の常ならば
えばる下っ端
サツもヤーコモ

馬子

何事ぞ 一把からげの鍋の蓋
好いたほれたで

泣いて喚いて

大成

好きなればあばたも笑くば 糞も味噌

尿も甘き

ジュースなるやも

元刑事

いかゞなる 老いて盛んの大センセ

不浄の金で

酒場通いは

馬子

鍋の蓋 七千円じゃあちよいと無理

杖つき爺の

馬となりては

大成

デモの列 盾押し倒し 突破口

マンモス所長

プレレスの技

元刑事

悔しきは分るにあれどけじめあり

マンモス所長

餓鬼のケンカは

大成

内ゲバの影に裏切 密告者

ホンチョの話

嘘かまことか

元刑事

密告者 その正体はサツの尻
やらせて殺し
知らんぶりして

大成

オッドロキ ブラックリストの顔写真

載らぬ野郎が

何と三人も

元刑事

そいつこそ 真正銘スパイなり

載るはずなきぞ

サツの飼犬

大成

重宝かな ヤーコの手出し 何もなし

無法地帯も

ドヤの二畳も

元刑事

気をつけよ あると思うな サツの笠

通力失せば

君も明日は

大成

何たるぞ 電光石火 ポロ隠し

君と浅警

通々の中

公安刑事

知らぬなり ホンチョは一切 関わらず

裏事あれば

浅警のワル

権力は人を墮落の馬作り

同じポリ公も

馬のレベルで

母ごころ あるはずなしぞ 浅警の

女署長は

たゞの牝馬

本庁の捜査、公安 仲悪し

ポロがポロ、

内輪ゲンカで

浅警でデカを待伏せ 隠しどり

知らぬが仏

戦果バッチシ

元オウム とがにあらねど権力と

つるみの瘡は

終生の恥

大成

ポケサツもさすが馬子は雲の上

月の砂漠に

竜宮の城

馬子

竜宮城 こゝは秘密の本能寺

サツの裏口

すべて丸見え

馬子

何故行かぬ サツの旦那がお待ちかぬ

万札4枚

いたゞけるやも

大成

もう終り 不浄の金はいらぬなり

馬子稼げず

ちよいと未練も

公安刑事

大成がついに寝返り スッポカシ

袖下たんまり

用意したるに

公安課長

かくなるはオウム犯にてお召捕り

『露宿』を見張れ

ネタが出るやも

総監

鎌掛けて焙り出しせよ 大成の

よからぬ知恵は

マンモスのワル

公安課長

裏切者 一把からげでさらし首

退職金は

お取上げて

事あらば浅警とても逃げられず

坊主悪けば

袈裟も同罪

手始めはサリン一発 マンモス城

ポリ公百人

皆殺して

新宿中央公園にて

詠む

橘安純

動く歩道 あるかされてる あ
 るいてる
 追いだして 動く歩道つくる
 二十世紀かな
 都庁舎を いつも仰いで 公園
 野宿
 都庁舎風 野宿テントを ふる
 わせて
 そびえたち 足元みえず 野宿
 に無策
 胸はって 言えることかよ ダ
 ンボールハウス撤去
 催物場つくるくらいならシエル
 ターに解放せよ新宿西口地下

(新宿の句だけ、まとめました。そのうち放浪中の句も発表させてもらおう気です。
 今日、明日中にも東京を離れるつもりです。4月3日)

おきなわ旅日記 ～出航～

恩田 美代子

1996年3月、東京の有明埠頭から沖縄行きの船に乗った。旅の目的は…ただ、なんとなく。久し振りの旅に気持ちは高揚するが、船が管理されすぎ、綺麗すぎ、今いち面白くない。それでも、甲板に出て大きな海を見ていると、全てが洗い流されていくようで。

乗船から2日目、天候が悪いらしく揺れがひどい。立っていると、メロメロに酔ってしまうので寝てばかり。食欲なし。昼間甲板に出ると、大海原にこの船が存在し、その船に自分が乗っているのを実感し、生かされている気持ちになる。

誰かと会話をしないと頭が変になりそうなので、近くに居た学生達に声をかけると意気投合し、互いの旅の日記帳に記念にと書き合う。

私はいつも何かを求めて旅をしているんだっていう気持ちがあって、でも結局すごいものってまだみつかってなくて、でも旅に出ずにはいられないですね。それではよい旅を！ W

日本人なのに日本国内、なんかよそ者って感じで。日本を知りつくして日本人になりたいです。お互い素敵な旅をしましょう。船内にて O

旅をすると、たくさんの発見がありますよね。発見することへの好奇心というかそんな気持ちで私は旅をしています。よい旅をしてください。 N

長い船旅で御一緒できてとてもうれしかったです。はやくも沖縄にとりつかれている御様子で同じ沖縄ファンとしてはうれしい限りです。よい御旅行を！！ Y

さてさて、思いつきで出掛けた沖縄約20日間の旅で、思いよらぬ出逢いと出来事が私を待ち受ける!? 次回、乞うご期待!!!

新島とまら 湊町より

新潟県新島市の、信濃川が海へ注ぐあたり、湊町よりマタに送る。
……こんなページ。

風は痛いもんだ、ということも新島にきてつくづく思い知らされた。

十年前に初めて体験した新潟の冬。顔面にバチバチ打ちつけてくる風の痛さは、かつて味わったことのない様なもので、今、この瞬間、自分ほどヒドイ目に

あつてる人は、この世にいなんじやないか……と馬鹿なことを平気で考えつく程ひどいものであった。時に霰アザミをともない、全くもう情け容赦無い。

新潟物産展で美味しい日本酒や、信濃子（名物である）は味わうことができても、この風だけは味わえないぞ、これが、これが新潟の風や……（どの土地に關しても言える）

遠い町に來たもんだ、と思おうのもこんな時。（けじ）
……三月、感動のあの日がやってくる!!

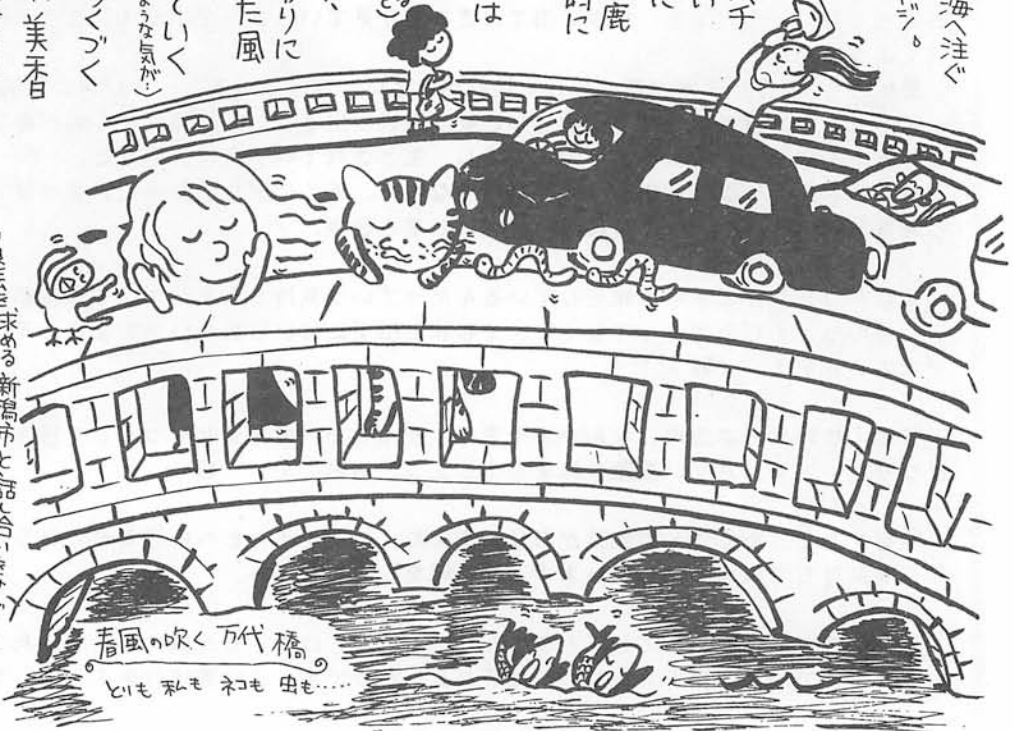
風の痛さが消えた、と感じる朝である。新聞を取りに表に出、まだ冷たくはあるが、痛さのつと消えた風に吹かれ、しばし立ち尽くす朝。

冬の間、寒さで縮こまった体がゆくりとほぐれていく様な気がし、何だか気持ちもやさしくなっていく。（ような気が）
春はうれいもんだ、ということも新島にいて、つくづく思い知らされる。

PS.しかし世間の風に季節はない、とも思おう。今日のこの頃、駅の連絡通路から路上生活者 自主的退去を求める新潟市と話し合いをマッパ、

立岡橋 美香白

今朝、越冬会の会のメンバーで出かけてきたのでした
2001.4.5



春風吹く万代橋

いも私も ねも 虫も……

東京

路上

ふらり

散歩

第12巻

写真・岡田知子
文・笠井和明

東京の果て—小岩





春である。

早咲きの桜は突如の花冷えに驚きながらも、東京のビルの谷間に弱々しい花を散らしていく。狂わんばかりの壮絶な美を醸し出せない都会の桜はどこか気の毒でもある。所詮花見酒のつまみ。出来合いの愛玩物。クリスマススのイルミネーションと何ら変りはない。

それでも春の訪れをこの花はいつの時代にも告げ、告げたとおもうとすぐさま散ってゆく。日本人はこよなく桜が好きである。精神文化の美学にまでなり、国の花のように愛でられ、戦時中は同期の桜、特攻隊の爆弾積んだ自殺機は桜花とまで命名された。何げなく咲き、またたく間に花びらで空を覆い尽し、そして何げなく散っていく。何か人々の果たせぬ夢がそこに託されているかのようで悲しい。

たいがいはそんなふうまく人生が転がる筈もなく、死ぬ時は痛いし、後悔するし、のたうちまわりながら生き、そしてくたばるのである。蕾みにもならず、咲きもせず、そんな人生ごまんとある。

東京の桜はもはや場末の花である。

と、いう訳で、今回のふらり散歩は総武線に乗り小岩駅で降りる。

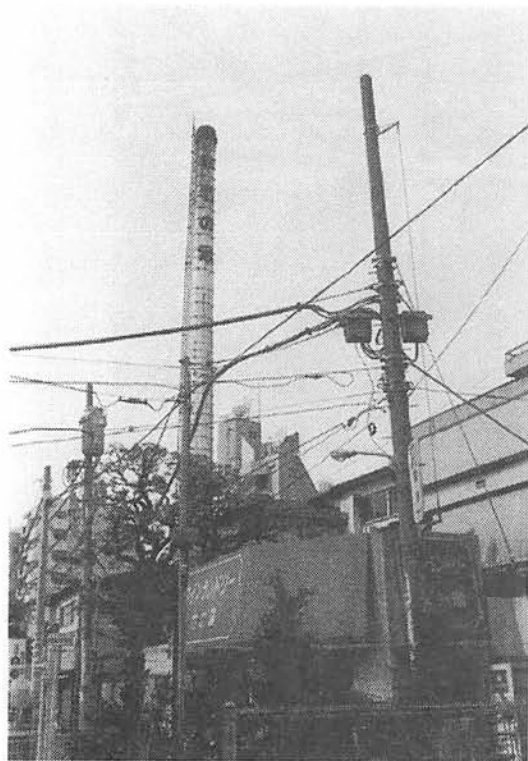
江戸川区は東京の東の果て、江戸川を渡ればそこは千葉市川。東京東部のゼロメートル地帯はただただ平べったいだけの土地。

小岩駅南口を出て、東に行くとサンロード。西へ行くとフラワーロード。まずは東に足を向ける。

さぞかし立派な商店街かと思いきや、ただの落ちぶれた商店街。旧街道よろしく古びた平屋の小商店が軒を並べるが、今次の不景気のせいか閉店した店もちらりほらり。

小岩と言えは江戸から成田不動へ向かう三つの街道が交わる閑所と渡し場で栄えた旧宿場町。けれども今やその栄華はない。かつての街に比べこの辺り何百倍も人口が増えただろうに、地元の商店街は何故か錆びれるばかり。

東に伸びるサンロードはやたらに長い。西のフラワーロードもこれまた長い。こういう街の構造が商店街として合理的かと言えば決してそうではないのだが、昔の街道筋は皆同じ構図である。昔ながらの商店は近年移住してきた現代人にはもはや見向きもされないよう北口の真



ん前に聳えるイトーヨーカドーの合理的な店舗に足を向ける。

落日のサンロードの哀愁に耐えられず、柴又街道を右に曲る。

かつての水田地帯には所狭しと住宅が並ぶ。荒野を開拓して形成してきた東京西部圏との大きな違いは、土地の起伏のなさ、木々の少なさ、電柱の多さ、埃臭さと、そして、どこかどんよりとした鬱囲気。高い建物とさえば銭湯の煙突のみ。北関東から流れる江戸川下流の肥沃な平野に、区画整理もままならずに住宅が所狭しと建ち並ぶ。地場産業がほとんどなく、人目を引く観光地もほとんどない普通の街。

東小岩の平凡な街並みをとぼとぼ歩くと樹齢六百年と言われる影向ようこうの松を境内に持つ善養寺に着く。そこが宿場町であった名残りのようなもので神社仏閣がこの辺り御多分にもれず多い。そして水田と松しかなかったという土地であるだけに区内には屈指の名木がいくつも残っている。

桜に比べ松の木はずっしりとして存在感がある。幹はこれまでかど太く、そして枝の先には繊細は葉。桜のように妖艶ではなく、妖怪変化もせず、人を惑わすこともしないが、常にそこに在る強さ。桜のように群れなくとも、たった一本で全てを語ってしまう木。そういえば日本人は松もこよなく好きである。

善養寺と江戸川堤防は目と鼻の先。埃を撒き散らす乗用車の疾走をかき分け土手の階段を登る。

初春のおだやかな日差しが土手の芝を柔らかくしてくれる。目の前に広々とした河川敷が広がった。グラウンドでは少年が野球を楽しむ。嬉々とした声が無数にあがる。

光り輝く川の向こうは千葉市川。総武線の鉄橋の向こうには巨大な高層マンションが建築中。高級そうなマンションもちらりほらり。まるで向こうがきらめく東京の都のよう。どこでも、いつでも、隣の芝は青いものか。遠くから見るからこそ夢が見れる。しばし、ぼうつとする。

都の果てには何があるかと言えば、水際の藪に隠れるおっちゃん達の飯小



屋。土手からはバツと見は見えないのだが、枯れた葎を掻き分けて行けば小さな手作りの小屋が数件、数件と姿を現わす。小屋の回りには調理道具やら生活用品やらが小じまんまりとまとめられ、黒くくすんだブルーシートの屋根は主人を帰りをじっと待っている。

葎のぼうぼうとした枯れ葉の中は一つの異空間である。そこに入れば少年達の姿も消え、そこから見えるのは広い空と川と対岸のみ。どんな思いで仮小屋の人々は生活しているのかと思いを巡らす。世を捨てられる場所すらない東京で、あたかも世捨て人のような視線で見られる貧しき人々。自分を慰められる空間の中だからこそ、小屋を自分の力で建てる。寂しさとか現実逃避とかそんな事に構っていられない生活の重さが、家を建てる。手作りの小屋は叫びたくなるほど切実な現実である。

東京の境目の川辺まで至っても、堕ちても、そこには果てはないのである。

総武線の鉄橋の下をくぐり、河川敷に別れを告げ北小岩に出る。高通量の多い千葉街道を渡り、狭い路地を行き来していると、小岩の森公園に出た。ここも名前と裏腹なただの街中の小さな公園。真中にある早咲きの桜はもう花びらを散らし始めていた。



公園の奥では近所の家族が日向ぼっこ。どこにでもある日常の春の光景。その先の京成線の高架の下にある猫の額のような児童公園にもバランスよく二本の桜。こちらは満開。小供がはしゃぐ。

東京の桜は小市民になり過ぎた。人を惑わす事を忘れ、人を狂わす事を忘れ、只の春の光景に埋没している。東京の街並同様に中途半端なのである。それを綺麗、儂いと表現し酒を酌み交わしている東京人もその桜同様、中途半端なのである。

北小岩から総武線の高架を目印に西小岩に入る。小岩駅の北口繁華街である。駅前の一角は繁華街と歓楽街が混ぜこぜになった世にも奇妙な街。駅前の一等地はスーパーも銀行も風俗店も店舗を持ちたい。商いの執着はフォーマルもインフォーマルも隔てはしない。お互い客引き競争、異業種同士仲良くやろう。と、言った一角である。イトーヨーカドーの裏の駐車場には何故かしら蔵が残り、妖し気な古びた雑居ビルと近代的なテナントビルが平気で同居する街。

混沌は良いものである。が、混沌し過ぎると辟易もする。頭がくらくらする。場末のおかしな「人工桜」はこんな所にあっただのだ。やれやれと言った感じだが、これも東京の姿である。

高架を再びぐり、南小岩のフラワーロードに出る。花はもろろんどこにもない。狭い歩道に自転車がひしめくこちらサンロード同様、長い、そして錆びれた商店街。見るべき所もなく、驚く所もない。こちらはうって変って平凡な街並。

商店街から住宅地に入っても風景はさほど変わらない。平べったい土地の平べったいだけの街。千葉街道を起える頃には街並もすこしばかしの余裕を見せ、空き地があったり、畑があったりし始める。春の日差しが心地良い。





駅前中心地のあの混沌さえなければ全体として良い街である。けれど、何をして良いのか分らない人は意図してか意図せざるかは知らぬが、ああいう空間をふと作ってしまう。傍目から見るとバランス感覚というのには人にもないものである。必死で生きるのに精一杯だからである。醜悪だろうが何だろうが生きようとする力には誰も対抗できない。

総武線沿線の街は大きなテナントビルやスーパーを誘致する事で街の活気を取り戻そうとしている。それがいかに無駄な抵抗であったのかは、錦糸町のそごう閉店でも明らかになった。けれど欲の深い金持ち商人は常に目先の利益を考え、資産価値に目を奪われ、その下卑た夢にはきりが無い。そこそこの街は嫌われ、ゼネコンに売られ、空虚な街に変えてしまう。それに比べれば小岩駅前の醜悪さはまだまだ可愛いものか。

松にもなれず、桜にもなれず、醜い花を咲かせて散らせて人々は生きる。中途半端な波に揺られて人も街も行った来たり。まるで春のぼんやりとした雲のよう。

中川を渡り、新小岩方面とと思っていたのだが実はフラワーロード、緩やかなカーブ



を描いていた。別に不思議がらずに歩いていたら東小岩、北篠崎に戻っていた。土手を登ると先程と同じ江戸川の光景。まだ子供達は野球に興じている。おっちゃん達の飯小屋もちらりほらり。そして、水辺の輝き。

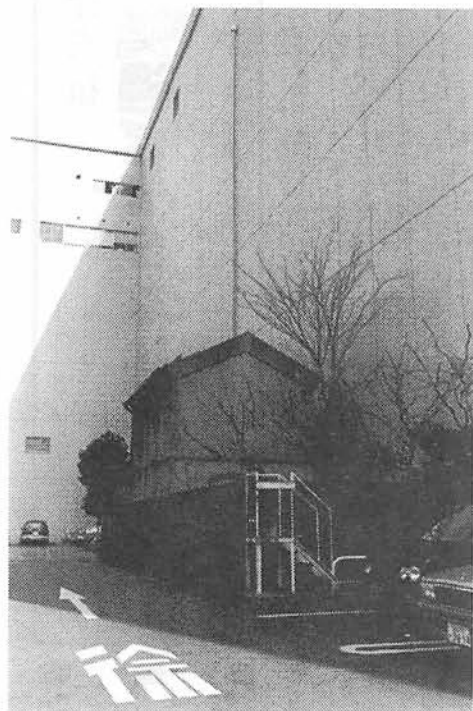
仕方がなく江戸川沿いの街並を北に北上。地主であろう旧家と新しき家族の家々のアンバランスを楽しみながら歩けば、そこは一里塚。一里も迷子になったかどうかは知らぬが、何かの道標の地名だろうか。昔の人も現代人も迷える人々はこうやって歩き続ける。

京成江戸川駅から再び土手にあがり、かつての渡り場のあった岸辺でごろり。春の風が出て来た空を見上げる。

河原のおっちゃん達がいつも見ている空。何ものをも隔てない空。ちっばけで、不安で、中途半端な自分の心が空に映る。

もの怖じしない松の木も、心が揺れる桜もそこにはない。それが本当に人が求めているものだといつも考え、いつもすぐ忘れる。自然の少ない東京ならではの心象風景。

のんびりと眺める東京の空もなかなか捨てたものではない。



徐京植

『過ぎ去らない人々』

影書房、二〇〇一年

「過ぎ去らない人々」。このことばはいったいわたしたちに何を訴えかけようとしているのだろうか。「過ぎ去らないもの」：、その対極にあることばは「過ぎ去りうるもの」。そう、これはわたしたちが二十世紀を振り返る上で、けっして素通りすることのできない、人物たちを記憶し、記念するためのものなのである。そしてこの書は、サブタイトルが示すように、著者、徐京植が彼、彼女らにささげる「墓碑銘」なのである。

この書を読むとき、わたしたちがどのような歴史の上に生きているのか、どのような人々の生活の上に生きているのかを、あらためて思い起こさせてくれる。それはけっして、長嶋茂雄や王貞治、ベーブ・ルースやルー・ゲーリックといった英雄たちの物語ではない。わたしたちがこの社会のなかで、「無垢」に、そして「誠実」に生きようとしたとき、いやおうなく踏みこびってきってしまった人々への鎮魂歌なのである。ここで回想されている人物たちは、しかし、それぞれに何かを歴史に残してきた人物ばかりである。彼、彼女らを媒介として、歴史の記憶からさえも忘れ去られようとしている人々の群れのあることを、まさに「過ぎ去られよう」としている多くの人たちがいることを、わたしたちに思い起こさせてくれるものとなっているのだ。

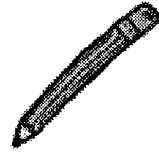
著者が解説するように、二十世紀はまさに「難民の世紀」(H.アーレント)なのだ。そして現代社会の情勢を見るにつけ、「難民の世紀」はさらに二十一世紀にまで引き継がれようとしている、という思いを強くさせられる。わたしたちの世界はどこへ向かおう

うとしているのだろうか。「国際化」「グローバルizm」「IT革命」：、こうした大文字のことばばかりではなく、「介護」「教育」「カウンセリング」「道徳」……。これらのことばの裏には、たえず犠牲を強いられていく人々の苦しみと呻きのあることを、そしてこうしたことばに都合のよいように人々の生活を、そしてこのろまでも、改造している、改造されつづけているということを憶えつづけなければならない。

わたしたちがほんとうの意味で「他者」と向き合うことはできるのだろうか。生活水準や価値観の近い者たちとは、出会うことができる。しかし、そうでない人々とは……。出会うことはおろか、そうした人々が存在することさえ思い起こすことができないままになってしまっているのではないだろうか。池袋に住むおっちゃんたちに出会うまでの自分がそうであったように。著者の最後のことばは、わたしたちのころを強く揺さぶる。『こうして私は私なりの墓碑銘を刻み終えたところだが、まだ問題は残っている。言葉少なに死んでいった者たち、貧民、庶民、兵卒、流民、先住民、境界人、被差別者、非合法活動者等々については、彼ら自身によって書かれた記録がほとんどないことである。さらに言えば、飢餓や戦禍のため毎日死んでいる第三世界の民衆も。これらの人々こそが「難民の世紀」の主人公であった。彼らの「墓碑銘」は、誰によつて、いかに刻まれるのだろうか？ 出会うとは、どこからともなく与えられるようなものだ。それを演出するものを、仮に、神と呼んでもいいだろう。しかし、その出合いを「出合い」として気づき、大切にしていくなは、他の誰でもない、自分自身なのだ。この世界のなかで誰とも共に生きようとしているのか、どのような世界に生きたいと願っているのか。わたしはわたしの歩む道のなかで、「出合い」に気づき、大切にしていきたい。それは何も世界に出て行かなくとも、わたしが生活している、いま・ここの場所でこそ、できることなのだ。あらためて、そのことに気づかされ、励まされたように思える、そうした一書である。

折口文

読者のページ



読者のページは「露宿」の自由投稿スペースです。御意見、御感想、編集部への質問など「ろじゅく編集室・読者のページ宛」にお送り下さい。

露宿11号「路上讃歌 十五首」

富士森和行氏作 読後感

矢田道夫

まず内容的に心がひかれるのを選ぶと、
◎稽古始めの武道の響き勇ましき若きらの直ぐなる世をば想へり
◎心のケアより頼む神の在さむに何ためらへり路上の魂
◎まざまざと初夢ならぬ現にぞ路上の命の救われし見る
◎わが窓の健気なるかもシクラメン白く楚々たるを鑑みの如く
◎心充すレベルとなりて路上誌の春を讃ふる時こそくらむ
の五首である。思いつくまま感想を綴ってみた。最後の「心充す……」の歌、「そういう時が今に来るだろう」の意味で、「時こそくらむ」と言っている。この表現を見ただけでこの作者はかなり古語の表現に詳しい人だと感じるのである。古語（＝文語・古文）で「来るだろう」の意味で「くるらむ」とは言わないという知識のある読み手には一種の安心感を与えさえる。ただ少しひっかかる点がある。それは「時こそくらむ」とな

ぜ言わなかったのかという点である。「心充すレベルとなりて路上誌の春を讃ふる時こそくらむ」では語法的には正しくても語調が弱いと作者は考えたのではないかと思われる。「くらむ」「くらめ」で結んだ他の和歌短歌を想起できない私にはこれぐらいの感想しか書けない。

次に「わが窓の……」の歌、内容的には高いものがあるから、私の趣味では「わが窓に健気なるかもシクラメン白く楚々たり鑑みの如く」のように調べを引き締めた気持がする。

「まざまざと……」の歌、「路上の命の救われし」の意味が一般の人にわかるかどうか心配だ。凍死寸前の野宿者が救急車などの応急処置で意識を回復した様子を知らせるのに短歌は字数が足りない。その点残念である。

「心のケア……」の歌、作者はクリスチャンなのかも知れない、そうならば「路上の魂」の句は複数で読まれねばならない歌と思う。ただ「より頼む」の表記は「頼りたのむ」或いは「依り頼む」とした方がよいのではないか。「より」を助詞とみる人がいるかも知れないから。

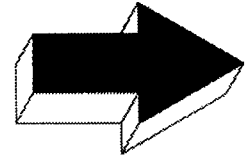
「稽古始めの……」の歌、成人の日、武道館にての詞書があるが、さわやかでとてもいい歌だと思った。「直ぐなる」の上に「ま」を加えたいと感じるが……

以上「露宿」誌上の短歌をこんな楽しみ方をして読む者もあると知らせたいと綴ったものである。

はり師いが丸の 肝心かなめ



はり師いが丸



世の中なんと事故が多いことかと思うようになったのは、やはり治療に携わるようになってからである。交通事故、労災事故。地震、雷、火事、オヤジ。天災だろうと人災だろうと、過失だろうと自業自得と言われようと、それまでの日常生活を奪われることは痛烈につらい。そうした惨事で傷を負った者だから、日常の営みができないであろうと世間から定義されるのはもっとつらい。15歳の春、家を失った。故障したコタツから出火し、春の風にあおられ自分の家と両隣3軒を全焼させた。祖母が顔に火傷を負った以外、死傷者が出なかったのは幸いだった。

衝撃はあったが、悲しみはなかった。私がまだ子供だったからだ。ふたを開けたままのピアノや、マンガを詰めこんだ本棚がそのまま炭になっている様を見て、笑う余裕さえあった。思い出の品などなくても生きていけることを知ったが、男手ひとつで老婆と3人の子供をかかえ、家を失った上、両隣3軒を焼いてしまった父の苦勞など、父がそれらを克服した今となっても私には想像すらできない。70年暮らしてきた町に棲家を失った祖母は、「家に帰りたい」と毎日泣き続け、脑梗塞で入院し4ヶ月後に他界した。

お寺や親戚の家を転々として間もなく、ある人の厚意で近年中に取り壊す予定の空き家に住めるようになった。その日から、着の身着のまま放り出された一家の元には、かねてよりお世話になっていた方々から生活物資が連日届けられるようになった。鍋釜の類は20個以上、布団は10組以上。古着に至っては今の新宿のカンパ並にいただいたと言っても過言ではない。火事を出した身分なので、もう十分ですとは言えるはずもなく、2階の八畳間は布団と古着で溢れていった。

布団の類は捨てるのもためらわれ、近くの教会に海外かどこか寄付できる場所はないか尋ねてみた。そのとき初めて、「日雇い労働者の街」として釜ヶ崎と山谷の名前を聞いた。どうして日雇い労働者の街に布団（注：本当に必要なのは毛布である）が必要とされるのか、当時の私はたぶん判ってなかったと思う。結局送料を負担する余裕などあるわけなからうと親に一蹴されたので、それらを山谷に送り、縁ができることはなかったが、山谷と釜ヶ崎の名前は何故かそのまま私の中に記憶されていた。実際に山谷を訪れたのはその5年後のことだ。

15歳の小娘は町並みが時代の名において変わっていくことをすでに呪っていたが、共に生き、自らが最も親しんだ風景を破壊したのは自分自身だった。今でも消防車のサイレンだけは苦手で、耳をふさぎたくなる。

ここには言葉がある。我ら無告の民を拒否する！露宿3年目へ！

何故だか言葉を発したくなる時。何故だか紙に言葉を残したくなる時。人は人を求め、人は社会を求め。無言は美德ではない。饒舌な表現こそが、形遺すものこそが歴史を作る。貧しき民が発する言葉を埋もらしてはいけない。我らはいつまでもインタビューの対象や取材の対象ではない。自ら自らの文化を構築する主人公である。

集え、路上の表現者！作品の形式、質の基準はいっさいなし。我らにしか表現できない題材は路上にごろごろ転がってる。それを感性ひとつで調理せよ。よくも続いた露宿2年、3年目ののたうちまわりを共にせん！

次号13号（2周年記念号）は6月25日発行予定です。

原稿締め切りは5月31日必着にてお願いします。

〔露宿定期購読の御案内〕

路上芸文総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

編集後記

桜咲き 散るこの道は 輝いて

また歩き出す えんやこらよと

ありきたりではありますが、咲いては散る花に人生もまたかくのごときと、うなづく春。こうして桜が見れて、また、露宿を無事発行できる事に感謝します。思田さんの「おきなわ旅日記」の連載が始まりました。気分はもう夏へまっしぐら？ううん、もう少し花見酒でほろ酔い気分を味わいたい？あー桜が散ってゆくー。ではまた！（お）

露宿ペン倶楽部短信

橘安純さんが先日まで上京。新宿中央公園で富士森和行さんと初対面。東西路上歌人は和気あいあいと交流をしていました。朝日新聞でも紹介された橘さんの句集「地球にねてる」をようやく入手。微妙なニュアンスがたまりませんでした。

今回、春号らしく多くの味深い作品が寄せられました。みなさんありがとう。励ましあいながら思った事をそのまま書こう。誰かがどこかで露宿を読んでくれています。

露宿バックナンバー

在庫一掃セール好評継続中！

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号の在庫があります（2号、4号は売切です）。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。バックナンバーに限り1冊300円（3冊以上は送料無料）での一掃セールをしています。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。（尚、在庫が切れた場合はご容赦下さい）。

Rojuku

定期購読大募集

♪ 露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪ 露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくられました。一冊でも多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したいと思い、利益が出れば炊き出しのお米代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先
郵便振替口座
00160-6-190947
「ろじゅく編集室」

露宿 ROJUKUはココで買えます。

- ◆**模索舎** 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557
- ◆**TACO ché** 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010
- ◆**スペースかぼす** 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666
- ◆**新宿中央公園ポケットパーク** (毎日曜午後6時から8時まで) TEL 090-3818-3450
- ◆**城西教会** 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL 03-3466-0445
- ◆**山谷労働者福祉会館** 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073
- ◆**石手寺** 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870
- ◆**ぐりん・びいす** 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第12号 2001年4月25日発行 (隔月刊)

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋 1-14-5-13
TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン倶楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー